

2016新春 労使共同 セミナー

1月21日、今年で14回目となる新春労使共同セミナーを前橋テルサにて開催し、連合群馬・群馬県経営者協会より400名が参加しました。冒頭、経営者協会の児玉会長からは『経済情勢は円安など経済成長戦略にはほど遠いものがあり、政府に頼らず労使協調で力を合わせていきたい』、また、富澤会長より『コンプライアンスの問題など労働組合がチェック機能を果たしていきたい。諸先輩方が築き上げた労使関係についてこれからタッグを組み、諸課題に取り組みたい』と挨拶がありました。

講演会では昨年から盛り上がりを見せているラグビー界から、元日本代表の大畑大介さんを迎え、ラグビー人生の岐路にたった時からの経験など講演をいただきました。



大畑 大介

OHATA DAISUKE

- 小学校3年生でラグビーを始める
- 東海大学付属仰星高等学校出身、高校選抜に選ばれる
- 京都産業大学で日本代表
- 世界で活躍、国際試合トライ数世界記録樹立
- 神戸製鋼コベルコスティーラーズと契約
- 2011年現役引退

トライ数世界記録樹立した ラグビー元日本代表

「為せば成る！」

「迷った時はしんどい方を選べ！」とは



泣き虫であかんたれ大介少年、友達の輪には入れず、なかなかコミュニケーションが取れなかった。周りは阪神タイガースファンが多く、野球で盛り上がるなか、父親がラグビーをやっていたこと、近くに花園ラグビー場があった環境で小学校3年生からラグビーを始める。

ラグビーを始めたことで、足の速さを武器に周りが次第に評価してくれることが大きな力となった。友達とも仲良くなり、嘘のように心が開けてきた。



なったらいいなあではなく！自分になれるんだという気持ち「為せば成る！」精神

チームの成長と自分の成長を感じることができるとはなれないかと強豪校ではない高校へあえて進学。『右足には全国制覇、左足には高校日本代表。』の目標設定し、体が小さい方だったので、まず脚力をつけた。なったらいいなあではなく、なるにはどうしたらいいのかを考え行動して、自分になれるんだという強い気持ちで「為せば成る！」精神がついた。2年で全国大会を出場するがケガに見舞われる。3年では大阪府大会で負けてしまい、“右足目標”は達成できなかった。高校選抜で繰上げ代表として選ばれるが、海外遠征で自分をアピールすることができず悔しい思いをした。



周りと比べるのではなく
自分の中で一番がラグビーと決めていた

6年から中学までは、成長期による足の痛みで走ることができなくなった。骨折や肉離れとは違い物理的に難しい状態になり、自分の力を出せない表現できないもどかしい時代となった。しかし、ラグビーで走ることが楽しいのはわかっていたのでやめなかった。子どもも20年経てば成人。20年向き合えば次のステージに行けるのではないかと。



AとBの選択肢があるときは、しんどい方を選べ

大学の進路を決める段階では、父親から「AとBの選択肢がある時は『しんどい方を選べ』』と言われてきた。自分の行きたい学校ではなく、自分の足りないものを補えるところを選ぼうと、練習量が多い大学を選んだ。大学3年で日本代表に選ばれる。ワールドカップの勝利を目標に戦い、07年が最後のワールドカップとして貢献したいとの思いがあった。しかし、直前の二度のアキレス腱断裂により、出場できなかった。

プレイヤーとしてこんなプレーをしたいではなく、“大畑大介”がプレーすることで周りの人たちへプラス作用が生まれることが一番の目標であり引退まで頑張れた。現在は、女子ラグビーのプロデュースをしています。大畑の名で化学反応を起こして、後輩たちに何かを残していきたい。



その昔、群馬で有名な某チームで活躍し、大畑さんと戦ったこともある金子副事務局長は講演を聞き…

「ボールを持てるまでの努力。ボールを持った時の正確性やそれぞれのポジションで責任を持つことで認められる。」という言葉にあった通り、適材適所でそれぞれが自分たちの仕事を全うしながら、お互いに良いところ悪いところを補い、高め合うことが大切だと思いました。